

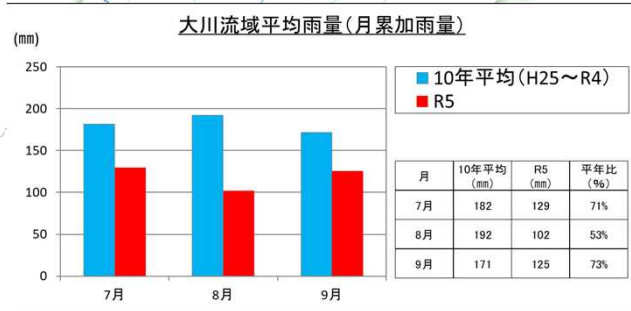
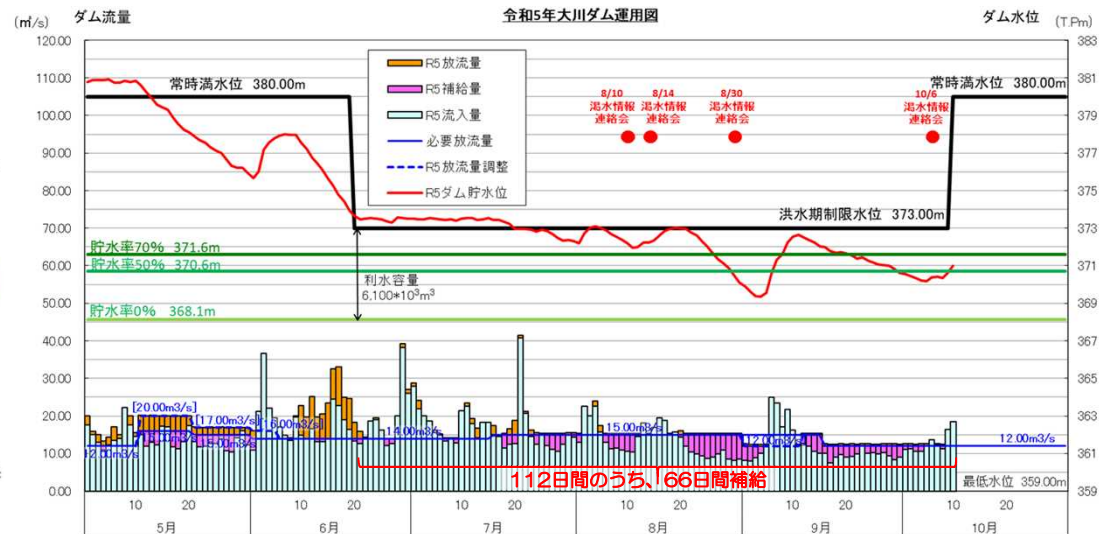


<大川ダムからの補給>

大川ダムでは、洪水期の始まりの6月21日から流入量が下流の利水等に必要な放流量を下回る日が断続的に発生し、不足分をダム貯留分から補給しています。

特に7月以降は例年に比べ雨が少なく、連日の猛暑も重なり流入量はさらに落ち込みました。

洪水期間の6月21日から10月10日までの112日間のうち、66日間大川ダムから補給を行いました。その総量は約1,600万m³で東京ドーム『約13杯分』に相当します。10月の現在も流入量が少ないため補給を継続しています。



不足分を補給

【補給量】
6月21日～10月10日までに
東京ドーム約『13杯分』を補給。

×13
(東京ドーム1杯 約124万m³)

会津南部土地改良連合、会津中央土地改良区、阿賀川土地改良区から大川ダムの放流要請を受け、ダムの日々の流入量を確認しながら、放流量を定め、稲作に最低限必要な灌漑用水を確保することができました。